



臨床試験によるがんの新しい治療法の開発

臨床試験部・受託研究事務局・臨床試験室・薬剤部

愛知県がんセンターの大きな使命の一つは、がんの新薬を用いた安全で有効な治療法を開発することです。このためには、まず臨床試験により、この新薬や治療法がどの程度の量をどのような投与方法で行えば、重い副作用を生じることなく有効な治療法になるかを調べる必要があります。本院では、昨年度、約100件の臨床試験を600人以上の患者さんのご協力を得て行っています。初めて患者さんに使い安全性を確かめる第I相試験から、従来の治療法と比べて新治療法が安全でより良く効くかどうかを確かめる第III相試験まであります。また、新薬と従来の薬とを組み合わせた新しい併用療法を開発するための臨床試験も行っています。臨床試験に該当する患者さんには主治医からその安全性と有効性につき十分に説明して同意をいただき、治療にあたっては、受託研究事務局（製薬メーカーからの新薬の治験などを担当）に所属する11名の臨床試験コーディネーター（CRCと呼びます）と臨床試験室（医師主導臨床試験を担当）の3名のCRCが患者さんに付き添い、主治医や看護師、薬剤師、試験責任医師とともに治療の進行役を務めています。これらの臨床試験はがんセンターの受託研究審査委員会や倫理審査委員会で、試験を行うことで患者さんの不利益が生じないかなどを第三者委員も参加して厳重に審査した上で承認されたものです。最近、患者さんに使うことができるようになった分子標的薬などの新薬もこのようにして開発されました。当院での臨床試験にご理解ご協力ください。

臨床試験 → 新薬・新しい治療法



臨床試験部（受託研究事務局（新薬の治験）
臨床試験部（医師主導臨床試験））

腫瘍ウイルス学部では

研究所からの報告

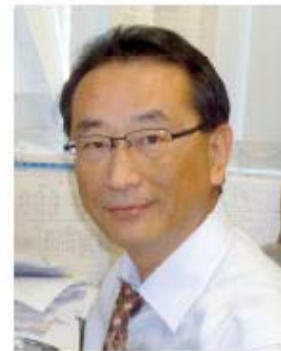
—腫瘍ウイルス学部長— 鶴見 達也

私たちは、ヘルペスウイルスの一種で、ヒトがんウイルスであるEBウイルスの研究をしています。実は健康人の9割以上の方がEBウイルスに感染しており、とても身近なウイルスですが、リンパ腫などの血液がんや上咽頭（いんとう）がん、胃がんを引き起こします。

私たちは、EBウイルスが作るウイルスタンパク質のひとつが、細胞がん化のブレーキとなるp53と呼ばれるタンパク質を分解に導く際の詳細なメカニズムを明らかにしました(Sato Y et al. PLoS Pathog, 2009)。また細胞増殖のブレーキとして機能するp27と呼ばれるタンパク質を化学的に変化させる（リン酸化といいます）ことで、これを分解に導くことも見出しました(Iwahori S et al. J Biol Chem, 2009)。

このように細胞の機能を修飾してEBウイルス自身が増えるような環境にしていることが判明し、その制御法の開発にも取り組んでいます。

(中日新聞 2009年7月20日付 朝刊一面)



腫瘍ウイルス学部長

鶴見 達也

人のがんウイルスが、細胞がん化を防御しているタンパク質を分解してしまう仕組みを、愛知県がんセンター研究所腫瘍ウイルス学部の鶴見達也部長と佐藤好隆研究員が、名古屋大学との共同研究で突き止めた。米国の感染症専門誌「三十一日付号」に掲載される。

愛知県がんセンター、名大解明
がんは遺伝子異常による発症が一般的だが、一部はウイルスによって引き起こされる。新たな仕組みが判明したのは、六種類あるのがんウイルスの一種「EBV」。リンパ腫などの血液性がんや上咽頭がん、胃がんを引き起こす。

正常な細胞では、異常な細胞の増殖を抑える「p53」と呼ばれるがん抑制タンパク質が細胞に自死を促し、がん化を抑えている。EBVに感染するとp53がいったん活性化するが、一転してp53の量が約十分の一に減っていることを発見。がん化にブレーキをかけているp53が、なぜ消えていくのか調べた。

人の細胞内には、不要なタンパク質があると、ある特定のタンパク質が結合し

て粉々に分解処理する「ユビキチン化」と呼ばれる機能が働いている。有用なタンパク質であるp53には起きにくいこの現象が、がんウイルスがあると起きてしまい、不要なタンパク質とみなされて分解処理されていることが分かった。

鶴見部長は「仕組みが分かり、p53の減少を制御する方法を見つけることにつながる」と話している。

がんウイルスが「防御役」分解

がんウイルス → タンパク質 → 結合 → ユビキチン化・不要と判断 → 分解

特定のタンパク質 → 結合 → ユビキチン化・不要と判断 → 分解

p53が減少する仕組み

スタッフの紹介



放射線診断・IVR部(技術室)

当技術室では一般撮影、乳房撮影、CT、MRI、RIなど診療に役立つ高品質の画像情報を提供しています。また画像誘導下で放射線技術を利用した特殊検査や治療(IVR)の支援も行っています。患者さんの立場にたって、良質な医療サービスを提供できるよう日々努力しています。

中央病院からの報告

泌尿器科部では

—泌尿器科部長— 林 宣男

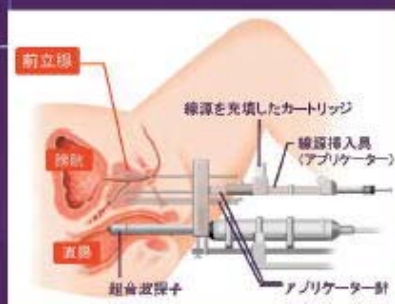


泌尿器科部長

林 宣男

泌尿器科部は、スタッフ3名、レジデント1名で診療を行っています。取り扱うがんは、前立腺がんが一番多く、膀胱がん、腎がん、腎盂尿管がんと続きます。前立腺がんの放射線治療は、手術と並ぶ根治療法です。放射線治療は体外から病巣を狙って照射を行う「外照射法」と、放射性同位体を密封した線源を病巣内に留置し内部から治療を行う「組織内照射法」に大別されます。当センターでは、「外照射法」としてトモセラピーで強度変調放射線治療を、「組織内照射法」としてI-125シードを用い小線源治療を行っています。小線源治療は手術よりも適応範囲が狭く、強度変調放射線治療は広いです。いずれも、最新鋭の治療法で、かつ良好な治療成績を上げています。

小線源治療の方法



線源を挿入しているところ



線源挿入後のX線画像



- 短期間の入院が必要
- 小線源の挿入: 1~2時間程度
- 線源は埋め込んだままでよい

写真: 日本メドフィックス株式会社提供

◆ 診察医の紹介 ~放射線治療部~

私たち放射線治療部は開院以来高精度治療を患者さんに行ってきた長い歴史があり、現在は最新式のトモセラピーで治療しています。切らずに直せる癌は増えています。スタッフ4名(古平 毅、古谷 和久、立花 弘之、富田 夏夫)とも専門医の資格を持っていますので、手術以外の治療法は無いかと迷いの時は是非我々に相談ください。



古平 毅 部長



古谷 和久 医長



立花 弘之 医長



富田 夏夫 医長

主な診療案内

平成22年1月1日現在の中央病院外来診療担当一覧です。

受付時間：午前8時30分から午前11時30分まで

(自動再来受付機) 午前8時から午前11時30分まで

診療科	月	火	水	木	金
総合初診	波多野	樋田	山雄	森島	丹羽
消化器内科	山雄(初診) 田近・河合・原	山雄(初診) 水野(伸)・河合 澤木	山雄(初診) 澤木・原・近藤	澤木(初診)・丹羽 脇岡・小林・松本	丹羽(初診) 田近・水野(伸) 今村
呼吸器内科	吉田(初診) 堀尾(芳)(再診)	樋田(初診) 吉田(再診) 朴(裕)(再診・初診)	清水(淳)(初診) 樋田(再診)	堀尾(芳)(再診) 清水(淳)(再診) 朴(裕)(再診・初診)	(交代制) 樋田・堀尾(芳)・吉田 清水(淳)・朴(裕)(初診)
循環器	波多野			波多野	
血液・細胞療法	山本(初診) 田地	森島(初診・再診) 山本・大木・大野(随時)	大木(初診) 田地・千原	森島(初診・再診) 山本・小野田	田地(初診) 大木
薬物療法	室・設楽	宇良・高張・横田	室・高張	宇良・柴田	室・高張・設楽・横田
頭頸部外科	長谷川・花井		長谷川 兵藤(午前のみ)	小澤 寺田(第1・3予約のみ) 花井(第2・4予約のみ) (第5交代制) 長谷川・寺田	寺田
形成外科	兵藤・神山		兵藤	兵藤	
胸部外科	安部	光富(予約のみ) 福井	伊藤(志)	光富・波戸岡 片山	篠田・光富 波戸岡・伊藤(志)
乳腺科	藤田(初診) 安藤・林(新)	岩田(広)・安藤 藤田	安藤(初診) 岩田(広)・堀尾(章)	岩田(広)・林(新) 藤田	岩田(広)(初診) 安藤・藤田・波戸 (予約のみ)
消化器外科	小森(康司) 伊藤(誠)(第1・3・5) 中村(一)(第2・4)	金光・三澤 千田	小森(康司) 伊藤(友) 清水(泰)・二村	平井(孝)・佐野 伊藤(誠)	
整形外科	杉浦・山田	杉浦	山田		杉浦・山田
泌尿器科	林(宜)(初診)・小倉 脇田(予約のみ)		小倉(初診)・脇田		脇田(初診)・林(宜) 小倉(予約のみ)
婦人科	水野(美)(初診) 吉田(章)(初診)	中西(初診) 吉田(章)(初診)	伊藤(明)(初診) 吉田(章)(初診) (第1・3・5)	中西(第1・3・5) 伊藤(明)(初診) 水野(美)(初診)	中西(初診)
放射線診断部	金本(初診)		山浦(初診)	佐藤(初診)	加藤(初診)
放射線治療部	古平・富田・古谷	古平・立花	古平・立花・古谷	富田・古谷	古平・富田・立花
専門外来			ペインクリニック 木村(午後のみ)	禁煙外来(予約のみ) 田中・伊藤	リンパ浮腫外来 岩田(伸)(第1) 平井(正)(第2~5)

※ 医師名の後の数字は、月の週を表します。

※ 変更(休診)等がございますので、お電話でご確認ください。

※ 再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。 052-764-2911(直通) 午前9時~午後5時(土・日・祝・年末年始除く)

交通のご案内

地下鉄利用：「自由ヶ丘」②番出口から 徒歩7分

○名古屋・栄から 所要時間：名古屋から約30分
東山線「藤ヶ丘」行き乗車、「本山」乗り換え、
名城線「左回り」乗車、「自由ヶ丘」下車。○金山・栄・大曽根から 所要時間：金山から約35分
名城線乗車、「自由ヶ丘」下車。

市バス利用：「千種台中学校」下車 徒歩4分

○名古屋駅から 所要時間：名古屋駅から約40分
基幹2系統「光ヶ丘」または「猪高車庫」行き乗車、
「千種台中学校」下車。○星ヶ丘から 所要時間：星ヶ丘から約20分
星ヶ丘11系統「地下鉄自由ヶ丘」行き乗車、
「千種台中学校」下車。

愛知県がんセンター中央病院 Tel. 052-762-6111 Fax. 052-764-2963

がんセンターNewsはQRコード再生紙を使用しています。

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1 ホームページ：<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>